

中川根ふる里通信

= 第65号 =

中川根ふる里通信
昭和61年4月20日創刊
編集・発行・連絡先
〒428-0313
静岡県榛原郡中川根町上長尾
TEL. 0547-58-0015 859-6
郵便振替口座 00870-4-81556



2003年
5月23日
16時ごろ

天変あり
降^{ひょう}雹^うが
た



大被害を受けた下長尾地区の茶畑！
JA大井川中川根支店構内の積雪ならぬ積氷！
真に棒崩れと化した茶の木！ 写真提供 澤本廣さん

激しい雷雨は雹に変わった……

子供も驚いた。大人も驚いた。九十歳のご老人も初めての体験だった。雹が降った。雹が積った。

五月二十三日、午後四時ごろから町内、上長尾、高郷、梅高、下長尾、瀬平、下泉、壺町河内地区などに、雹が降り農作物は大被害を受けました。

特に極地的に降雹を受けた下長尾地区、下泉原地区、梅高地区には、雹が積り、平的はセンチ、吹きだまりは50センチ、深い所は一メートル近くの氷積となりました。中でも下長尾地区西南部への降雹はすさまじく、茶畑は今年出た葉はおろか、古葉まで落とされしまいました。この状態を棒前れと言うそうです。畑の作物は全滅、ナスも大豆も、トウモロコシも、カボチャも全て叩かれて無くなってしまいました。もっとも樹木も葉を落されて



降雹地域の略図。(情報をまとめて書いたので不正確な点もあります)

- が特に降雹のあった所。(下長尾地区西部)
- は10cm以上の氷積があった所。
- 雨に雹がまじった所。(この地域はもっと広模図のも)

右下の写真は、茶樹の上に積った状態タバコと比較してある。大きさはピンポン球だった

枯木になってしまったのですから、粗織のやわらかい草や花、野菜の受けた打撃は大きなものだったでしょう。

積った氷が流されて国道下の根山文男さんの家へ一気に入り込んで、大変な事になりました。下長尾区の人達や町役場が救出活動をして事無きを得たやうです。改めて自然の破壊力のすごさを感じました。

不幸中の幸いは一番茶が終ったからの出来事であった事だと思えます。今年が良い茶が取れたと喜んでいたら天先ではありましたが、お茶前やお茶の最中だったら、と考えるとやはり不幸中の幸いと言わざるを得ないと思えます。

この日、大井川上流井川高原でも積氷があり除雪車が出たとか、浜北方面では雪が降ったとか情報が入りました。中川根の降雹も数百メートルの通り道が出来た様でした。夕立や隣も降ったか聞いてこい、の川柳のように、積氷地域と雨まじりの降雹地域と、雨だけの地域が線と引いたように分かれて

いるのも不思議でした。町内でも、除氷には、機械や人手をのけやりました。下泉の大井川鉄道橋から下長尾



国道三六二号線接点までの渠道と、国道三六二号線横がし付近から、ハナツラ峠付近までの除氷と梅高地区(梅高平)の除氷が主で、シヨベルカーや人力で冬場でもめったに見られない除雪ならぬ除氷を行いました。各道脇にはうす高く積まれた氷だまりが出来、米だるまも作ったとか。当日は三十度近い気温だったのが、降雪後は急激に温度低下、寒い夜となり真に冷蔵庫に入った様で、氷だまりの近くは四度だったとか。

あれから一ヶ月半がたちました。棒くすれになった茶畑も新芽が生え、黄緑色になりました。作物も植え直したり、種蒔をしたり、自然に脇芽が出たところもあります。落された柿や桐の葉も新芽が出て来ました。信じられないかも知れませんが、雹の通り道となった山も痛めつけられ、杉や松、椎や栲の常緑樹も葉が落されました。そこにも新芽が出ています。自然界の治癒力の力強さを感じました。

人間界も降雪で穴があったり、骨組みを残して落ちてしまった塩化ビニールの屋根や、割れたガラス板、割れた瓦など、それを修理しました。

二番茶は採れない茶園や、摘期が大幅に遅れた茶園もあるようですが、雹は茶畑や作物に付く虫をも一掃してくれる(虫が死んでしまう事)と言います。虫にも益虫も害虫もいるので、危険な農薬を使うことなく、出退治がなされ、雹も天の恵みとらって、来年は豊作となることを祈りましょう。

余録

積乱雲の発達過程で、雷雨が雹や霰、雪に変わるのには、上昇気流や冷たい空気、温かい空気の温度差や地形で雲の中が攪乱されて起こる現象だそうですが、今回最も被害の多かった所は、積乱雲の発生しやすい所だということとです。又、ふる里夜話の原田さんが来世へ



旅立って早半年余がすぎました。原田さんがご存命だったならこの雹襲来何と話されるだろうかと想いました。他分、前例をひもといて判りやすく話されたのでは……と想像するのですが。あるいは、空の上で、入道雲から雷神様が氷袋を開いて、雷太鼓を打ちながら、下界目がけてバラまこうとした時、この下には、心のやさしい人々やいろいろな生物が棲んでいるし、緑豊かな楽園じゃけん、手心を加えてやってくりよよ。とたのんで下さったような気がします。

中央小学校遠足がありました。

中央小の遠足(ふるさとウォーク)が今年から、山登りになりました。1,2年生は白羽山、3,4年生は大礼山、5,6年生は蕎麦粒山周辺と、新緑の自然を体験しました。早川校長先生が「地元の子ともが、地元の山や自然を知らないのでは山の子とは言えない」との考で実行されました。この季節、あの可愛い、シロヤシオも咲いていて、5,6年生は、「初めて見たよ、すごくきれい」と感動してくれました。自分の生きている地域のすばらしさを知ってもらってよかったと思います。



大井川の清流を考える 第三回

大井川を見つめて八十年

山田 部

前号で日本の川と大井川に比べて川とは何だろ、ううを皆さんと一緒に考えて参りまいたが、説明不足のところがありましたので、話を少し前に戻すことにします。

日本の川は大量の土砂を流し、それが氾濫堆積して沖積平野を作ったと申し上げましたが、その沖積平野は飲料水が得られやすく、耕作もしやすく、舟による交通も便利だからこそ人がそこに住みつきまいた。しかし、時々洪水の氾濫を受ける宿命があったわけでありました。換言すれば災害に遭うという構図であります。結局は、人々が川沿に住んできたということとは、川から受ける害よりも恵の方が多かったという点ではないでしょうか。

川の流れる元来、洪水であれ、濁水であれ、何千万年もの継続の中で、川の環境を造ってきたわけであり、無駄な水は一滴もなかったと考えるべきであります。

洪水で石や礫が動かされ、古い苔がはがされ、また新しい苔が生えれば魚族(鮎ほか)にとっては良い餌になります。また洪水によって運ばれる大量の物質(プランクトンほか)は、海の生物にとっての一大栄養源であるわけでありました。

川は洪水という攪乱を受けながら、長い年月にわたって自然環境を形成してきたのであります。私たち人間は、本来この川の環境維持のために不可欠な水を使わせてもらっているものであり、その自覚の上に治水・利水を行うべきであったと思います。

現在では、すでに治水の安全度も上り、水害になるのは大

洪水の時だけです。ダムで調節するにしても、中小規模の洪水はできるだけ調節せずに、海まで流す時代になっているということですが。

川にとって無駄な水はないと申し上げてきましたが、ダムが出来るまで水力発電や水資源(農業用水・工業用水・生活用水など)のために大量に取水や貯水されるために、洪水時を除けば、ダムから下流にはほとんど水が流されず、水無しの区間があるいは減水区間が登場します。この現象は日本中のあちこちで見ることが出来ますが、その典型の事例として新潟の信濃川、四国の四万十川や大井川がとり上げられますが、要は水(川の流れ)を発電のためだけに利用しており、川のもつ他の恵は犠牲にしているということですが。

―身近に大井川流域のお話をします―

◎お手数ですが、ふる里通信63号のP.10「大井川流域の発電所とダムの図を出してご覧下さい、これから続く現地の紹介に必要な図表となります。(次ページに前記図表の縮小版記載)

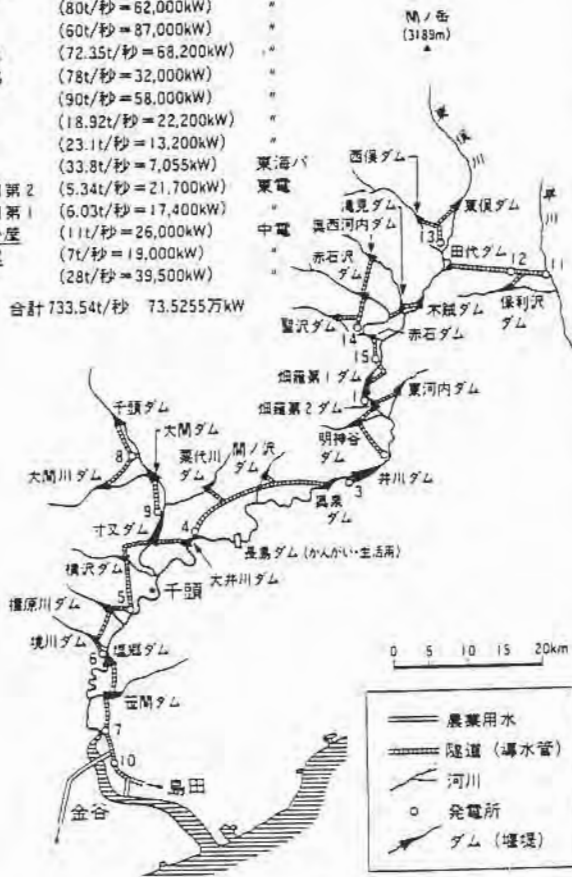
大井川は赤石山地の間の岳(三二八九m)を源として東俣・西俣川を合せて大井川の源流部を下り大井川ダムまでを大井川本流(本川)と呼び、本川最大の支流光岳を源とする寸又川を千頭上流の本川で合流して本川は川根三町(本川根・中川根・川根)―島田(金谷)―吉田(大井川町)を経て駿河湾に流入する全長一八〇kmの急流河川であります。地質学的には静岡―系魚川構造線と赤石山地を横切っている破碎帯を含む地すべり地帯であり、崩壊土質のために大量の砂礫を大井川に流出させています。

●おもしろい図表には発電所は番号と名称・取水量・最大出力を、ダムは、種と夫々の所在位置を凡例を付して表示してあります。

大井川流域の発電所

番号	名称	取水量	最大出力
1	畑薙第1	(160t/秒)	= 137,000kW
2	畑薙第2	(60t/秒)	= 85,000kW
3	井川	(80t/秒)	= 62,000kW
4	奥泉	(60t/秒)	= 87,000kW
5	大井川	(72.35t/秒)	= 68,200kW
6	久野橋	(78t/秒)	= 32,000kW
7	川口	(90t/秒)	= 58,000kW
8	湯山	(18.92t/秒)	= 22,200kW
9	大間	(23.1t/秒)	= 13,200kW
10	赤松	(33.8t/秒)	= 7,055kW
11	田代川第2	(5.34t/秒)	= 21,700kW
12	田代川第1	(6.03t/秒)	= 17,400kW
13	二軒小屋	(11t/秒)	= 26,000kW
14	赤石沢	(7t/秒)	= 19,000kW
15	赤石	(28t/秒)	= 39,500kW

合計 733.54t/秒 73.5255万kW



さて、図に示すように、上から⑬の二軒小屋発電所⑪⑫の東京電力の田代川第一・第二発電所・下って畑薙ダム湖と①の畑薙第一発電所(一六〇七の取水と一三七〇〇KWの大井川水系最大の発電量をもっています)畑薙第二ダムのところ②畑薙第二発電所です。(この発電所は揚水式発電です)なお下って井川ダムに至って③の井川発電所、——長島ダム(国土交通省の施設で多目的ダムです、洪水調節と農業・工業・飲料用水の補給をします)は井川ダムと大井川ダムの中間にあります。——④の奥泉発電所ので発電に利水された水は大井川ダムの水と合せ寸又川ダムに送られる——寸又川には⑧の湯山発電所と⑨の大間発電所があります。——寸又川ダムに集められた水は⑤の大井川発電所に送られて発電し、ここから一二kmを導水管(トンネル)で⑥の久野橋発電所に至り、発電に利水された水は本川に戻されることなく塩郷ダムの直下の河底をサイフォンで対岸に

電源開発の功罪は別に論ずるにしても、私たちはその恵に感謝するとともに、更に進むであろう河川環境の悪化を、どのように受け止めるのか、企業者の責任と為政者の行政責任を訴えたい。

これは大井川水系だけの問題ではなく、全国の河川が悲痛な叫び声を上げていることでもあり、魚族や水棲生物の住めない川や水無し川を作ったその現実とダムによる土砂の堆積と反面、流入土砂の減少による沿岸域の海岸浸食の事態と、山・川・海の自然界の物質循環の法則を破ることを阻止しなければなりません。

東海地震の対策が叫ばれてから二十有余年と

渡り、笹間川の水を合せて⑦の川口発電所へ送られて発電後の余水の一部は⑩の東海パルプ赤松発電所へ送られ——その他の余水は川口発電所下流域に農業用水・工業用水・上水道及び広域水道用水として利水されています。

以上、利水による貯水と水の流れ方及び発電所について説明しました。

●水力発電は水の量と落差によって発電の量(出力KW)が異なります。そのために使った水を川に戻すことなく、山の中をトンネル(導水管)で流してダムとダムをつないで落差を求めて好立地のところに発電所を作ります。

——むすび——

大井川流域にダムと発電所が幾つあるかと図表の中を数えられた方もあるかと思いますが、大小合せて二九のダムと一五の発電所(中電12・東電2・東海パルプ1)があります。

あります。停止中の浜岡原発の安全・安心が気になるころではありますが、目下建設中の5号機一機で一三七万KWの発電力があると言われ、大井川水系での総発電量の二倍余の発電量となります。それならば水力発電をやめて川に清流を戻し、昔の姿に再生せよと言っても出来ない相談でありましょう。

川には河川法によっていろいろな水の権利があります。昔ならば木材を流す流木権・船を運航する通航の権利があり、現在は内水面の漁業権によって漁業組合があり、水利権は幅が広く発電の水利・農業用水利・工業用水利・飲料用水利など川にまつわる権利があり、特に発電用の水利は三十年間という長い水利用の権利であります。

私たちは昭和三五年(一九六〇)に川口発電所の建設により取水のため塩郷堰堤が作られた時から三十年間水なし川の大井川の河原砂漠を見てまいりました。住民決起による水返せ運動の結果とはいえ、平成元年(一九八九)から水なし川に五トン(夏場五・冬場三)の水が流れて、上流下流をつなぐ水道がついて川になったということも満足はできません。

前にも申し上げた通り新しい水利権の更新が過ぎて今年で十五年目になります。塩郷堰堤を境に上流部は堆砂による河床の上昇と、下流部の河床の低下は年毎に河川環境を悪化し、現在も環境悪化をいつけています。

春四月になれば天然の鮎が海から塩郷堰堤まで遡上して来ますが、餌になる苔の付く大きな石が無いため育ちません。集団で来襲する川鵜の餌になって終ります。

塩郷堰堤上流も毎年漁業組合が稚鮎の放流をしますが、石のない砂利だらけの川には苔もなく、川虫を

含む水棲昆虫も絶滅し、鮎も在来の魚も育たず、魚の住めない川となっています。

昔の大井川は水も多く流れも早く、遡上の鮎は大きな石に突き当り鼻曲りの鮎といわれ、落鮎の頃には尺(三十cm以上)を越す大物が釣れたと伝説のように伝えられております。今は川で遊ぶ子供の姿も、釣り人の姿も見られないし、あるのは砂利採取のダンプカーの群と河川工事の大型重機の動き回る姿のみです。

自然を殺し、死にかけた大井川になっていきます。改正された河川法の趣旨にそって、一日も早い河川環境の改善と再生が進み、特に源流二軒小屋地点の田代ダム取水の水は、富士川に分水されている大井川の水であり、流域の水は流域内に戻すことと、山と川と海の自然が生きる水系一貫の管理が確立し、大井川流域の上・下流が一体となって、流域住民のご協力と行動に森林を含む川と海が再生すること、に最善の努力をいつけてまいります。

あとがき……

大井川の今と昔を三回にまとめてみました。

大井川の現状をご理解いただくために、次号からは源流から沿山岸域までの現地ポイント写真と一稿に見聞記をご披露します。

編集室より

六月二十一日(土)に榛原郡八町組織「大井川の清流を守る会」が主催で海岸清掃をしま

した。御前崎町と金吾町、相良町と川根町、榛原町と中川根町、吉田町と本川根町、山(内陸)の町と海岸の町が心を一つにして、地域環境の保全に取り組んでいる一つの試みです。次回の「大井川をいつけて八十年」ご期待下さい。

お茶あれこれー第二回ー

静岡市 石塚 幸平男

お茶のことは、ことわざーそのー

「お客さん、ご心配なく。私はお客さんのことはだれにも言いません。一期一会のお客さんについては降車された後、すべてを忘れてしまいます」。

運転手は桑崎の心理を読み取ったように言った。

(「レッドライト」 森村誠一 実業之日本社)

茶道から出た言葉の例として、挙げるのは、ちよつと極端かと思つたが、あえて掲げてみる。実はこれは、犯罪を犯した桑崎の血の匂いに気づきながら、たまたま乗ったタクシーの女性運転手が、こう言ったのである。そして、約束どおり、以後口をつぐむのである。

極端な例だが、取りようによっては、見事な「一期一会」の約束だ。

「一期一会」という言葉は、茶人山上宗二(安土桃山の「常の茶の湯なりとも、路地へ入るより出るまで、一期に一度の会のやうに、亭主を畏敬すべし」(山上宗二記)に拠っている。

例の桜田門で浪士の凶刃に斃れた井伊直弼がこれを敷衍して「…茶の湯の交會は(以下要旨)その日の出會いは、もう二度と来ないのだから、一生に一度きりの出會いである」(茶の湯一会集)と言っている。

現代風に言ってみると「この世では自分一人では生きて

いけない。他人あての自分である。お互いいたわり合つて生きていかねばならない。そのためには、一生に一度しか会えないと思つて相手に誠意を尽くすこと、『一期一会』の心配りが大切である」ということだろう。

高校卒業の時、備忘録に「一期一会」と書いてくれた友人がいた。彼とは同じ大学に進学した。学部は異なつたが、いわゆるウマが合うのか、しょっちゅう会つていた。

その彼が、突然、新雪の蔵王で、年上の女性と心中してしまつたのだ。私あてを含めて三通の遺書を残して…。享樂的な彼は、ガールフレンドを沢山持ち、私たちをうらやましからせていたものだった。その彼が…といふかつたものだった。

決行十日前ほど、私は、彼と屋台にいた。私自身何かむしゃくしゃして、彼の言葉を聞き流していた。あの時、一期一会の気持ちがかけてうほどでもあったら、彼の何かがあつても分かつたかもしれない。毎年新雪の頃になると、彼の寂しげな顔とともに一期一会の言葉を思い浮かべるのである。

こんなこともあつた。つい先ごろ、火災調査官なるテレビドラマで船越栄一郎扮する調査官が、部下に「(火災の)現場は一期一会の気持ちで接しなければならぬ」と説いていた。

どんなに細なことも見逃してはならない、いつも見慣れているからといっていい加減な観察ではならぬ。それこそ、一生に一度しかない現場だと思つて、誠心誠意丹念に調査しなければならぬ。そうすれば「現場」は何かを語りかけてくれるものだ、という主旨であつた。



こうしてみると、茶道から出た「一期一会」も、のびのびと市民権を獲得しているものだと感じ入る次第である。次におもむきを変えて・・・

「お茶を飲むと色が黒くなる」という俗語がある。これは全く、てたらめもいいところである。むしろ、お茶は美肌をつくるのである。なぜなら、お茶のビタミンCは、毛細血管を強化し、皮膚組織に弾力性を与え、皮膚に潤いと若さを与えるからである。

それに、皮膚の色とかシミの元凶は、メラニン色素である。これは、アミノ酸のチロシンがいろいろの変化を経て、メラニンとなるのである。

実験によれば、試験管内では、チロシン→ドーパミン→ノルエピレナミン→メラニンと化学変化し、ビタミンCはドーパミンからノルエピレナミンに変化を進める酵素を阻害し、ノルエピレナミンの生成を抑制するのだそうだ。それで、最終的にはメラニン色素の生成を防ぐということになるらしい。

しかし、動物の体内で、ビタミンCが、実際のどの程度関与するかはまだよく分かっていないようだ。以上のことから、お茶は肌をきれいにする作用こそあれ、「色を黒くする」ということは、あり得ないと言える。

よしんばそうだとしても、お茶の師匠さんなど、一日に何杯も飲む人たちは、みんな色が黒いか。私の知っている限り、お年のわりには、シミも少なく、肌がツヤツヤしている人が多い。

どうして、みんな根も葉もない俗信が生まれたのであろうか。

昔、高価なお茶を女・子どもが一日中飲んでひまつぶし

をしては困るということから、逆説的に言われたもの、という仮説があるが、なかなか説得力があるではないか。こうしてみると「子どもがお茶を飲むと風が吹く」とか「秋なすは塚に食わずなす」(これには諸説があるが)などのたぐいも、同じ発想かもしれない。

だから、肌を気にする女性は、ほとんどお茶を飲んだ方がいいにきまっている。それだけでなく、「朝茶は三里行っても飲め」「朝茶は七里帰っても飲め」「朝茶を飲むとその日の離れを逃れる」「朝茶に別れるな」などということわざがあるくらい。お茶には、保健的に、精神的にいいことづくめの効用があるのだから。

今、いいことづくめと言ったが、実はお茶にもタブーがある。「宵越しの茶は飲むな」ということわざはよく知られている。お茶は長く放置しておくといつすらと白いカビが生えていることがある。これは茶葉の中のたんばく質が、細菌やカビが生えて腐敗する現象である。それを体内に入れたら・・・体に良くないことが自明の理である。

それに加えて使い残りの茶がらには、大量のタンニンが残っている。時間の経つにつれて、タンニンの濃度が増えてくる。普通に淹れたお茶のタンニンの濃度は、

0.1パーセントくらいで、胃の働きを活発にするから、よいのだ。したが、宵越しのお茶

はタンニンのエキスマたいなものだから、胃を刺激する。実験では1パーセントのタンニンで、ネズミの胃粘膜に炎症を起



ウスギヨウワの花

ナツバキの花



こすそうである。
タンニンが胃壁を荒らすという理由で「空腹時にお茶を飲むな」も守りたいことである。

それにしても、万事せちがらい世の中ではあるが、お茶ぐらいはけちけちしたくないものである。

さて、またまた、ちよつとおもむきを変えて……

「今日も某国会の舞台裏では茶番劇が演じられている……」
のように皮肉まじりに使われる、「茶番」は、どういふことに起因しているのだろうか。

『猿樂沿革考』(川崎重泰)という書に「享保の頃……茶を煮て餅菓子など食べて世間話などを語り合うときに……今夜は我が家において、明日はお前さんの家に行くから……」
としてかわりばんこに茶番をして接待する……

という記述があり、これが起こりとされている。
とこころで「茶番劇(狂言)」は「あさはかで底の見えすいた行為やできごと」の意に使われている。

江戸時代、歌舞伎役者が一息入れるとき、一丁、端の者が、茶番(お茶汲み)にあたった。彼らは趣向をこらし、

その場にあつた品物を使って滑稽な寸劇の座興をやるようになった。茶番にあつた下級役者が演じる滑稽劇だから「茶番劇(狂言)」といつたのである。

ついでに「茶坊主」という言葉があるが、これは、もと

も、武家に使えて茶事をつかさどつた人々の頭を割つて

いたので、こつ呼ばれた。彼らは主君の威光を笠に威張ることがあつたので、権力者にへつらう者とののしつた茶坊主というふうになつたのである。

さて、今ごろどこかの国会の舞台裏で、茶番劇が演じられ、どこかの高級料亭で、魍魎魍魎ともが跳梁跋扈し、その回りには茶坊主どもが、つろつろしているかもしれない。

以上見てきたように、お茶には、我々の暮らしに密着したこつわざや言葉が多い。それだけ、お茶は私たちの生活にどつしりと根を下ろしていると言えらるだろう。次号は、こつわざの続きと小説の中でお茶はどのように使われているかなどを見ていきたいと思います。

「中川根ふる里通信」 65号

編集室より

文中のちよつとむずかしい言葉を辞典にてしらべてみよした。
*敷衍 // 意味・意義をおしひろめて説明すること。また、わかりやすく詳しく説明すること。

*魍魎魍魎 // いろいろの化け物。さまざまの怪物。(全ての熟語に鬼偏が付いているから、化け物、怪物の中でも最も恐ろしいものだと想像してはいます。)

*跳梁跋扈 // 力をふるって思うままにふるまうこと。悪人など好ましくない者がわがもの顔にのさばりはびることを

——以上 大辞林()内は編者より

*かわりばんこのことを、川根の方言で「あがりばんこ」と言つていました。小学生のころ、お人形さんとかあがりばんこにだつこした幼な友達のこと、かいせん塔やゆうどうえんぼくで遊ぶのに順番待ちをしている様子が脳裏にうひよりました。



ヒメシロラの花



石塚さんの次回の「お茶」話、お楽しみになって下さい。

東京のかたすみから(三八)
 ●テレビの始めから終りまで

六本木とテレビ局

渡 邊 寅 夫

四十数年前、静岡から上京して日本教育テレビ(NET)の建設に参加し、現地視察にいった所が材木町であった。昔から材木の集積場があり、材木の商いをする商人が集まり住んでいた。そう名付けられたと伝えられている。

開局後数年たって、西部劇「ララミー牧場」や「ローハイド」、土曜洋画劇場の「裸足の伯爵夫人」「チャンピオン」「子鹿物語」などの名画の放送が当り、「洋画のNET」として人気を博した。娯楽局としても認知されるようになった。昭和四十二年、局の住居表示が材木町から六本木六丁目に変更された。

私が定年になる少し前、六本木再開発の話が出て、テレビ朝日の土地を提供することになった。工事中の一時避難先として、赤坂アークヒルスへ移転することになったが、この時には局内外に猛反対が起った。

しかし推進責任者であった田代喜久雄社長の「これからのテレビの仕事は、快適で働き心地の良い場所で行なわれるべきだ」という一言で決まったのである。

朝日新聞社では新入社員に「背広は吊しを着るな、品の良い物を注文して着よう」と伝統的に言われていると聞いていた。私はさすが朝日新聞社出身の社長の言葉だなあと思った。

あれから二十年後、民間最大の再開発事業「六本木ヒルズ」

が完成した。去る四月六日、テレビ朝日新本社の家族見学会に招かれた。今話題の五十四階建て、海拔二五〇メートルの六本木ヒルズ(東京タワーが下に見える)をバックにしてテレビ朝日新本社の前に立った時、開かれた新しい時代のテレビ局が出来上がったのを見た。



今日、五月二十六日の新聞は「六本木ヒルズ開業一ヶ月」で来場予想の倍以上、六百三十万人、地下鉄六本木駅を利用した人は前年同期の三倍となり「六本木が夜の街から昼の街に変わり、幅広い人の流れができた」と報じている。

六本木で思い出すことがある。テレビ朝日の英語

研修団のリーダーとしてロンドン郊外のリージェンシースクールへ通っているとき、BBC(英国放送協会)へ見学に

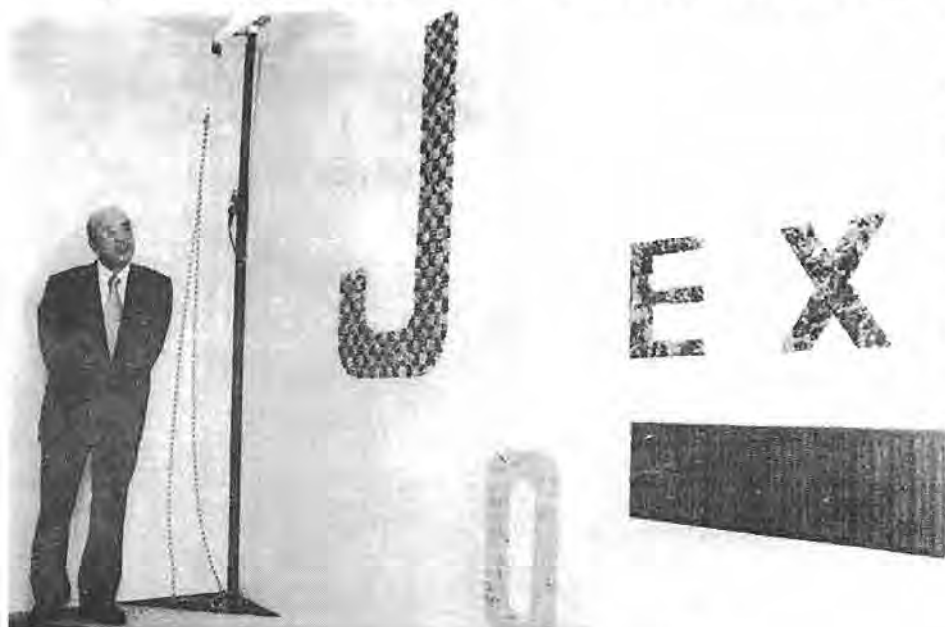
行った。歓迎の席上、アルコールがまわったころ、技術の責任者が私のところへやって来て「どこからきたか？」と聞くので、「ジャパン・トウキョウ」と答えたら、「ジャパン・トウキョウは知らないが、ロンドン夜の飲み屋は知っているよ」と言われたことがある。カーター大統領が訪日したとき、「警備の厳重なホテルをこつさり抜け出して、夜の六本木を楽しみ、焼き鳥屋へ行った」と報じられたことがあった。外国人には六本木というところが国際都市として、インターナショナルな白いと感じさせるのだろうか……。六本木が外人に特に親しさを感じさせるのは何故なのだろうか。

さて、話を戻して、家族見学会の折に行われた顕彰碑の除幕式に、広瀬道貞社長の幕引の前に立っていた私は、五十年間の思い出、苦しみや喜びがどっと押し寄せて目頭が熱くなった。

しかし設立当時の先輩には誰とも会うことはなかった。それもそのはず、考えてみたら創立発起人で、各派閥代表の旺文社社長赤尾好夫氏、東映社長大川博氏、東京タイムス社長岡村二一氏、サン写真新聞社長松岡謙一郎氏（近衛内閣時代の外相、松岡洋右氏の子息）、日本経済新聞社長小田嶋定吉氏たちは、生きていれば百歳を越えているのだが、十数年前既に亡くなってしまった。

その昔、教育にはテレビが必要だと言って申請した赤尾氏、十チャンネルの免許を与えた静岡県選出の石橋湛山内閣総理大臣、その面倒を良く見てくれた静岡県不吉田町出身の中島昌彦第一秘書、六本木の現有土地を提供した同僚である真田幸長さん（信州松代藩主第十三代目）に心から感謝する次第である。そして映画、ホテル経営で有名な大川博氏が繁栄を願って造ったお稲荷さん

POWER 2651 TV Asahi
 “テレビ朝日を築いた 2651人の司令塔”



テレビ朝日社日社長 廣瀬道貞氏による
 顕彰碑(右下端の銅板)の除幕式 2003・4・6

JOEXはテレビ朝日のコールサイン。

在籍者銘板(1957.11~2002.11) 2651名。(アイウエオ順) その中に
 赤尾好夫・大川博・岡村二一・小田嶋定吉・松岡謙一郎・真田幸長・渡邊豪夫諸氏あり。

このたび七階屋上の更に大きく立派な建物に祭られているのを見て安心した。
 除幕式後、赤尾氏、大川氏、その他諸先輩と並んで、私たちテレビ局に在籍した全員の名前が顕彰碑に刻まれているのを見た時、熱い感謝の気持ちで湧きあがった。
 (二〇〇三年五月記)

参考
 テレビ朝日取締役総務局長兼新社屋建設局長の橋功氏にお世話になりました。

堀之内古跡カルタ

平成十五年喜寿記念

櫻井 勇輝 著作

川根高校前の理容業の

櫻井勇さん(七十八歳)は、今年五月二十日喜寿を記念して「堀之内(現徳山地区)古跡カルタ」を自費作製・出版されました。

作製の動機は、二年前に中川根町商工会の前会長富田さんに「中川根の歴史かきた」づくりを依頼されましたが、広範囲でも対応出来ない事で辞退されたそうです。しかし、徳山地域のことは以前から研究をされ、絵地図にまとめられていました。「これをもとに徳山地区のかるたを作りたい」と、櫻井さんは情熱を燃やしました。

徳山地区は千年以上の歴史をもつ、地区丸ごと文化遺産のようなところですよ。櫻井さんは、文化を残すこと、土地の良さを知ってもらうこと、自己の能力開発の三つの目的を持ってかるたづくりに取り組まれました。



櫻井さんと堀之内古跡カルタの基となった堀之内絵地図。



出来上がったかるたを拝見しますと、歴史の研究をされていること、その土地になれ親しんだ生活習慣、何よりも徳山を愛していることが手に取る様に判ります。四十五枚の絵カルタには、新旧の写真やスケッチで、古跡や新名所・伝説や史実が描かれ、それを明確にやさしく示す字カルタがあります。今回から何回かに分けて、字カルタの紹介と同時に出版された「お話し」を紹介してみます。なお、「堀之内古跡カルタ」を購入された方は

静岡県榛原郡中川根町徳山一三六八 櫻井勇
TEL 〇五四七(五七)二八三二もしくは、
中川根ふる里通信発行責任者へご連絡下さい。

- あ 愛宕地蔵子供の安全祈るナンマイダー
- い 石摺の戸シミカトラのわからない大泉院
- う 生れ変わり孝行する馬の話に教えられ
- え えんとつの煙む青くなり炭の窟

お



お

大井川電源開発
水なしの川

か 鍛冶屋敷堀田の水で名刀作り

カルタの部次回号をお楽しみ

大正時代、茶の木は金の生る木と呼ばれました。

娯楽と言っても何もない時、寄り集まり色々と談読も盛り上りかかると、『嘘も方便室に成る』(仏が衆生を救うためにとる、つまい方法・てだて)と言う声を合図に、面白い嘘を言い、サツマの切干に大根を、はなど出して当屋(家)はもてなしをしてさうです。其の中から人間愛が生まれ、やうてよい事、悪い事を学び、自然に親しみ、苦勞を共に分かち合い、生きて来た人達は、立派な人生を送ったようです。

この嘘六さんのお話は、茶時が来ると村のあちこちで茶摘みながらユーモラスの話も出て来ます。嘘について面白く、間違えは大変なことになると言うことも勉強して、いつまでも人間愛を忘れずに生きて行きたいと思ひ筆を執りました。

人生は、ほがらか、あーに 行きたいと思ひます。

嘘つきじいさんの教え 桜井 勇

大正時代にとても面白い人で嘘つきの名人で「嘘六さん」と言う人がいました。農繁期の最中、川根茶の銘柄、ねこの手も借りた、いほどの忙しい時、茶摘の娘さん達は朝早く六時ごろから、おやつ、サツマ切干を持って、夕方七時ごろの薄暗くなるまで摘む、といった時代でした。今日では朝露が取れてから、又、雨の日は一切茶は取りませんが、当時茶摘さん達は、朝の茶は値が良いと言われて一生懸命休む間もなく摘んでいました。

びく(茶摘み)といっぱいになりかかった時、一人の老人が通りかかりました。すると「オーイ、じいさんや」と大きな声がありました。呼んでいる老婦は畑主のおばあさんでした。おばあさんは「今日はどこへ行くんだ、そんなにシヤ

レ込んで。そう急がぬと茶摘の娘さん達に一発「ウソッパチ」を聞かせて楽しませてくれんかの、おー」と言いました。すると嘘六さんは「今日はそれと、ろじゃない。清沢村の飛脚に行ってくる所だ」(このじいさんは、いつもと違って旅靴はきにナタを腰に付けている姿で)「おらが厄介になつているおやじさんの親類の長男が急に亡くなつてさ、キノドクニさ、嘘ッ話ーどこではない、早く知らせてさ、キノドクニ、キノドクニ」と言つて急ぎ足で去つて行きました。

畑主のおばあさんは、六(嘘)さんの厄介になつて居る親類と言つと「えーと、あれ？おらが本家の長男ではないか。えーと、待てよ、本家の長男が急死とは、なんて又この忙しい時、大変だあー茶どころでねーだ」おばあさん腰抜けになり、茶娘さん達に肩を借りて「そりやー大変だ、そりやー大変だ、おらも早く行かねば義理が立たなくなる」とおばあさん腰ふらふらで茶娘達に「一先ずおらが行つてる(見てくや)」と言ひ、茶びくなどをほったらかして大急ぎ、茶摘み姿でおばあさん、家に入り勝手へ行き「シヤク」で水を飲み(グイグイ息も吐かず)これでようしと掛け声、またふらつくは旅靴履いたままで良いなあ、と言ひ、家の人達になにも言う間もなく、大急ぎで髪は乱れ「キノドクに大変だー」と独り言を言ひながらサッサと早足。途中で「おばあさん、今日はなんだ、死んだ」と言ひ通り過ぎて行きました。

さあ大変近所の人達も茶摘み



どころではない。畑の中を飛び、おばあさんの後について
行きました。一人二人三人と増えて「何ごとだ」とついて
行きました。

本家は少し遠い所であって、家の「かまえ」もどえらい
もんでした。おばあさん、本家の前で口もオロロで「長男
が死んだって言うじゃないか、どうした事だ。茶で疲れた
か」などと大きな声で言い、茶部屋(茶工場)へ行き、又
ビックリしました。なんと茶部屋では長男が茶揉みも
やっていてはいませんか。

おばあさん、自分の目に手をあててコスリ、確かに長男
がいる。しかも茶揉みもやっている。長男に近寄り、「お
前、大丈夫か」と長男に手をあてて、おいおい大きな声
で泣きました。

長男は「おばあちゃん、今はなんだ、この枕しいのにどうして
だ」と、おばあさんを慰め、肩に手をあてて強く抱きし
めて「おばあちゃん、おれ大丈夫だ」と温かく
言い聞かせました。「おばあちゃん、夢でも見たと違
うかあ」またおばあさんが大声で泣き出しました。温
たかい胸の中で抱かれてすすり泣き、ふと我に返り
「ありがどうよ、また来るでなあ」と言い、「お茶だあ
お茶だあ」と言いぬき、帰って行き
ました。



おばあさんは「オレが悪かった、
大さんに嘘で楽しませてくれたと
言った一言でとんだ目に合います、本
当にすまんかった。人を侮辱する事
はいかんだった」と思い、それから
自分を見返る事、人を愛した

といいます。

このお話しは堀之内村の実話です。

次回号に続きます。

※(連絡)にも書き寄りましたが、前回はオオバーで、心が痛みました。
紙面充実、発行間隔をためてカバーしたいと思っています。

※テレビ開局五十周年記念番組が放映されて、良き時代を
懐かしんだりしております。実はNHKテレビ小説の「おしん」の
モデルは、本川根町八木地区の方だといふ頃教えられました。
先日発行先の主婦と生活社に、原文と使用許可願をホーヤに
許可が下りれば、原文を不許可だったら、感想を、次号にてお届け
します。楽々やりにして下さい。

※八月二十七日火星大接近。三ツ星天文台は八月は六日、二十日
をのぞいて毎日開いております。近づきつつある火星と美しい
星空に逢いには是非来て下さい。(通常は金土日開館)

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 千共 200円

皆様の定期購読がふる里通信の発行
を支えます。年4回の発行を予定してあり
ます。購読料は郵便振替口座をご利用
下さい。1年ごと4回分800円をご送金い
ただいても結構ですが10回分位まで
(2000円)はお預り出来ます。

購読料が切れた方には振替用紙を
同封致しますから、ご利用下さい。

もし購読を止めたい時や住所変更の
お時も是非ご連絡下さい。

郵便振替通知票番号

00870-4-81556

発行責任者 テ428-0313

静岡県榛原郡中川根町上長尾859-6

小沢節子

TEL 0547-56-0015

FAX 0547-56-0020

※(連絡) 郵送料が50円ずつで90円で来
ましたか。16ページで50.5~51.8に
なっています。今回より14ページで
発行させていただきます。

安全

※508以上は140円になります。